

27. ボトキラー水和剤のダクト内投入処理をする場合の注意事項

- (1) 本剤はバチルス菌（細菌）を有効成分とする生物農薬であり、このバチルス菌が植物体上に定着し病原菌の棲みかとなし栄養を競合することにより防除効果を発揮する。そのため、本剤は発病前からの処理により植物体への定着を促す必要がある。
- (2) 本剤の有効成分（バチルス菌）はキノコ栽培において、ストップ症状（キノコ菌糸の蔓延阻害）を引き起こす恐れがあるため、施設外へ流出しないように注意する。
- (3) 本剤の処理だけに偏重せず、過湿にならない栽培管理、定期的な葉かきの実施、花がら・古葉の除去など耕種的防除を励行し、灰色かび病が発生しない環境を整えるのが前提である。
- (4) 有効成分に影響を与える恐れがあるため、キャプタン、マンゼブ、TPN、プロピネブ、ストレプトマイシン剤とは併用しない。
- (5) 本処理を行うに当たり、あらかじめ上記以外の灰色かび病防除薬剤を散布して、ハウス内の灰色かび病密度を下げておくと効果的である。また、発病後は化学殺菌剤を併用し防除を行う。
- (6) 本剤のダクト内投入処理にあたっては以下の点に留意する。
 - ・暖房機などが数時間以上運転される条件下で使用する。
 - ・暖房機が故障することがあるので、暖房機の吸気口からは絶対に投入しない。
 - ・散布中はハウス内に入らない。散布後は十分な換気を行ってからハウス内に立ち入る。
 - ・飛散状況を把握するため、散布後は以下の点を確認する。不備があった場合にはダクトや投入口の設置状況を改善し、良好に飛散するようにする。
 - ・散布後は投入口付近に薬剤が残っていないか、ダクト内に薬剤がたまっていないか、結露や灌水により、ダクト内で薬剤が吸湿し固化していないか、内張の被覆ビニールの外側にダクトが移動していないか確認する。
 - ・可能であれば細菌用普通寒天培地を一晩暴露し、飛散状況を確認する。